

事務事業名		歴史研究所調査研究事業				会計	一般会計		事業種別		政策	開始	15	終了	
H27担当課等名		歴史研究所		H27係等名		総務係		H26係等名		総務係					
基本計画上の位置づけ		政策	6	地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
		施策	61	地域資源の発見・資産化											
目的	対象(誰・何を)	・史資料(文書、画像史料、歴史的建造物、歴史的景観等) ・歴史研究に携わる、あるいは興味のある人 ・「建礼物寺を古くは史料の調査研究、聞き取り調査により地域の歴史文化を解明する。 ・研究助成により、飯田・下伊那地域の歴史が多面的に研究され、生きた歴史情報が蓄積される」										指標名及び単位		26年度数値	
	意図(どういう状態にするか)											資料存在可能箇所数(世帯38,276+自治振興センター等15+市内小中校及び郡内高校36+企業団体等10+個人所蔵10)		38347	
	向上させたい上位施策の成果指標	見いだされた地域資源の数(累計)										おおむね75歳以上市民(聞き取り調査対象年齢)		17000	
目標	種別	指標名及び単位				26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)					
	成果指標	研究所で発表した研究成果の数(単年度)				60	81	60	60						
	成果指標	研究活動助成数(単年度)				3	1	3	3						
定性目標															
事業概要	・時間の経過と共に失われていく史資料調査、建造物調査、聞き取り調査(オーラルヒストリー)を実施し、資料の収集、保存、公開、活用を行う。 ・市内各地に豊かに積層する歴史や文化の達成物全てを「地域歴史遺産」、「地域文化遺産」として再発見し、関係機関との連携を図りながら、それらの調査・研究や、未来を生きる市民への継承などを、地域市民とともに取り組む。 ・研究員、調査研究員、顧問研究員、市民研究員等は研究計画書に基づきそれぞれの研究課題に取り組み、客員研究員には研究活動への積極的な協力を求める。その成果を、研究集会、定例研究会、年報等で公表する。 ・市域を対象にした研究活動を支援・助成することで研究成果の蓄積を図り、人材の育成に努め、広くその成果を地域に還元する。														
事業内容						名称				活動指標					
26年度事業内容	1 共同研究					1 調査回数	1 119回								
	2 基礎研究					2 研究件数	2 18件								
	3 研究集会8月23日～24日 飯田下伊那地域に関する研究報告会					3 参加者数	3 189人								
	4 研究成果物等の出版『年報12』(研究報告、市民の研究投稿等)					4 出版数	4 1件								
	5 地域史研究の振興と支援・歴史研究活動の支援と助成					5 対象数	5 1件								
	6 定例研究会					6 月例研究会等回数	6 7回								
	7 歴史史料の調査研究と保存・利活用(文化遺産を活かした地域活性化事業)					7 保存・利活用の史料数	7 約6,824点								
	8 地域歴史資料調査と地域史研究団体への支援					8 調査・支援回数	8 43回								
旧上郷村文書の整理 区有文書の悉皆的現状調査 今村家・北原家史料(座光寺)、木下家史料(松尾)、種屋史料(養蚕関係)															
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足									
事業費計(千円)①		20,644	17,770	15,910	16,289	国:文化遺産を活かした地域活性化事業補助金3,383千円 その他:出版物売却代454千円、諸収入56千円									
国庫支出金		4,897	3,800	3,383	3,000										
県支出金		2,800													
起債															
その他		647	350	510	350										
一般財源		12,300	13,620	12,017	12,939										
人件費計(千円)②		11,980		13,589											
正規職員所要時間		3,350		3,800											
臨時職員所要時間															
総事業費①+②		32,624	17,770	29,499	16,289										
事業内容・目標達成状況の振り返り	歴史史料の調査研究・保存・公開を行うとともに、その成果を各講座で報告し、古文書入門講座ではテキストとして活用した。地域史研究団体と協働で史料調査を行い、目録を作成し保存した。(25回、延べ330人参加)														
改革改善の考え方	①問題点	市民等からの依頼・相談により調査・整理を必要とする資史料が年々増加しているが、整理に時間を要し、また経費等の問題から調査や整理が進まず、公開に至らない史料が多い。													
	②改革提案	経費・人材を確保し、史料調査と整理を進める。地域にある史料は、地域の人々と協働で調査等を行い、地元で保存する体制を推進する。調査の目的と研究の継続性を重視して、研究事業の枠組みを見直す。													